



月曜論壇
總辭職と地方民
大衆を驚かす少くも所謂
革命前夜の不安に陥れた今
次政局の不安に陥れた今
義名分に立脚した全閣の解
決に導いた事は、澎湃たる
選挙戦の狂瀾を既倒に回し
正常の静謐を持し得る意味
に於て定に同慶に禁へぬ事
である。然り世を擧げて遂
に黒旋風の埒埒に投げ
込み解散の理由が、厳格な
る意味に於て國民の同意に
間はねばならぬ已む無き事
情があらば勿論であるが、
些かにてもこの根柢を削げ
る選挙は徒に社會を物情
騒然たらしめ、候補者及之
を纏る謀將忠臣の精力を消
耗し、夥しい物價を費して
の收穫は、奔命事日無き取
締り官憲の疲弊と之が副産
物たる或種の不祥事件以外
何物も無い筈である。斯る
觀點から其の最小限度を理
想とする態度を反對に待
望するは之れ即ち一部の選
舉プロカーで彼等は最近
中央政界の風雲漸く急を告
ぐるや、陣脚到來と許り先
年來姑く雌伏の状態に在
つた爪牙を磨き如何に
食糞歴なき暗躍を計し
た事であつたらうか、今回
の非解散は完全此種不逞
漢から跋扈跳梁の機会を奪
ひ去つたもので、選挙界の
公正を保つに於ては蓋し
絶好の歸趨であつた云々
事が出来る。由來崇高なる
憲法の條章に基いて帝國議
會を解散するには、断然立
憲國民をして全幅の首肯を
拂はしむべき公明正大なる
理由を絶対必要とするもの
で、頃來政界に於ける噴火
山上の危機に處した東京大
新聞が筆を揃へて理由なき
解散の不可を強調したのは
儼然たる新正論時代が一
部に阿ねんとする經濟なエ
ロージョナリズムを而も
痛快に抹殺したつたものと
して衷心欣びの情を表する
に吝かならざるものがある
妖雲散じて春日照々、早梅
は情として松ヶ岡の南崖に
笑ふ、呪ふべき遂に黄
塵より散はれた平和こそ我
が世の春と云ふべき歎

春雨煙る子鉄倉祠畔
大越中佐の功を讃ふ
濱口内閣の陸相として
「昔前に平町を訪れた新宰相
議會再開早々然として一
文を讀み上げ、在天の班と
して多端な現政局整理
大暗礁に乗り上げて了つた
雄魂に告ぐる一語は一語よ
の最前線に風爽と起つたの
政局の危機は竟に無意味に
り切つたる名文は満場の參
として大越中佐の女婿で
ある現閣東軍參謀長板垣征
四郎中將が最有力と觀られ
る故を以て次選とされ
てゐる總辭職によつて飛と
選擧の陸相は茲に年齒古稀
一奇と云ふべきである

課税反對の叫び
廿九日の緊急大會に
酒井、諸橋兩氏上京
産業組合課税反對の二は時代
に相應した再救
對を實現すべき全國産業組
合緊急大會は来る二十九日
の三は双方幹事が協議實現
の如く矢野校長陣頭に立つ
て萬全を期して控へた。卒
業を一月半後に控へた。今
二十五日現在では卒業八十
五名中自家營業三十五名、
進學四名を除いた就職希望
四十六名中六割弱の二十六
名を決定、卒業式當日まで
には買戻らない好成績を期
されてゐる

諸橋氏寄附
開眼手術に五百圓
人の開眼手術は急々近
新醫學大で行はれるがこれ
ら氣の毒な盲人に同情して
目下各方面から寄附申出が
あり平町でも既報三井第一
氏が五百圓を寄附した
櫻丘會協議
各項未決近再開
今から一昔前昭和三年の四
月十日、即ち町長會石城
支會並に在郷軍人會石城郡
聯合分會合同主催の忠魂祭
が櫻丘會初めた松ヶ岡公園
で催された日であつた。此
日恰も朝來の雨で卯月にあ
るまじうさぞ寒い日であ
つた。午前中忠魂祭を了り
一時から子鐵倉神社境内の
大越中佐銅像除幕式を行つ
たのであるが當時大將は演
説を讀んで校友會と協力實現
口内閣の陸相として應は
るべき公明正大なる理由を
絶対必要とするもので、頃
來政界に於ける噴火山上の
危機に處した東京大新聞が
筆を揃へて理由なき解散の
不可を強調したのは儼然た
る新正論時代が一部に阿ね
んとする經濟なエロージョ
ナリズムを而も痛快に抹殺
したつたものとして衷心欣
びの情を表するに吝かなら
ざるものがある妖雲散じて
春日照々、早梅は情として
松ヶ岡の南崖に笑ふ、呪ふ
べき遂に黄塵より散はれた
平和こそ我が世の春と云ふ
べき歎

平信用組合總代人會
剩餘金其他全原案可決
信用組合平鹿民庫の總代
人會は昨二十四日組合樓上
に於て開催先記原案を可決
した
(第一號)昭和十一年度末
現在財産目録貸借對照表
損益計算書事業報告剩餘
金總分案(配當出資拂込
濟みの年四分)

平署の送致件數
縣下四署の統計成る
縣下四署の昨年中に於ける
送致件數は(括弧内前年)
平九一三件(一、〇五六)
六件(六六五)六〇〇の三
千七百二十一件より六
八五件(福島四五五)四百
五十三件に上つて居る
(九八件)

指導と連絡強調
愈よ卒業の春近く
平紹介所の意氣込み
學窓から職業學校並に家庭
の連絡に關し
線に關り出す事懸念した
下各小學校に於ける就職
の求職兒は男六十二名、
女三十一名、計九十三名
を進行中の貨車には飛ば
されて重傷を負つた老婆を
平署で調へ、右は養護
になる職業を望んでゐる
(二)と云ふと云ふと云ふ
ん、ツンボで警笛が聞けな
かつたもの

不幸續きの一家
各方面の同情集る
哀れ襲はれた三七十
萬歳中同村粘土山で作業中
は赤井村西小川抗夫忠作の
親つて高所から轉落重傷
長男、母親は昨年春同村某
負つたので三七十若は父親
は明二十六日福島市公會
で行ふが平紹介所管内から
附した

住込み僅か五日目
酌婦情夫と逃走
平署で各署に手配
江名町中の作字長田料理業
ら前借五百六十圓で鞍替
友榮亭事阿部春吉方配崎
したものが翌二十一日年
令三十才位の情夫らしき男
が訪れ同人を相手に二十三
日深夜迄飲み續けたが二十
四日朝六時頃家人の目を
みて逃走、届け出により平
署では目下兩名の行方を捜
査中

ツンボの乞食老婆
貨車に飛ばされ重傷
昨二十四日午前九時頃内郷
村高坂内好問貨車専用線
を進行中の貨車には飛ば
されて重傷を負つた老婆を
平署で調へ、右は養護
になる職業を望んでゐる
(二)と云ふと云ふと云ふ
ん、ツンボで警笛が聞けな
かつたもの

平町初町會
來廿七日開催
平町の初町會は二十七日午
玉縣北足立郡生友生友生
(三)と云ふと云ふと云ふ
ん、ツンボで警笛が聞けな
かつたもの

不幸續きの一家
各方面の同情集る
哀れ襲はれた三七十
萬歳中同村粘土山で作業中
は赤井村西小川抗夫忠作の
親つて高所から轉落重傷
長男、母親は昨年春同村某
負つたので三七十若は父親
は明二十六日福島市公會
で行ふが平紹介所管内から
附した

不幸續きの一家
各方面の同情集る
哀れ襲はれた三七十
萬歳中同村粘土山で作業中
は赤井村西小川抗夫忠作の
親つて高所から轉落重傷
長男、母親は昨年春同村某
負つたので三七十若は父親
は明二十六日福島市公會
で行ふが平紹介所管内から
附した

不幸續きの一家
各方面の同情集る
哀れ襲はれた三七十
萬歳中同村粘土山で作業中
は赤井村西小川抗夫忠作の
親つて高所から轉落重傷
長男、母親は昨年春同村某
負つたので三七十若は父親
は明二十六日福島市公會
で行ふが平紹介所管内から
附した

不幸續きの一家
各方面の同情集る
哀れ襲はれた三七十
萬歳中同村粘土山で作業中
は赤井村西小川抗夫忠作の
親つて高所から轉落重傷
長男、母親は昨年春同村某
負つたので三七十若は父親
は明二十六日福島市公會
で行ふが平紹介所管内から
附した

古着に値上り
無し!
物價は暴騰して
當店質流と東京神田
山川總本店の仕入品
是非御覽をお待申して居ります
平町 旭屋衣裳店
電話四二五番

第一業務報告書
昭和三十二年四月三十一日現在
貸借對照表
資産(借方)金額
現金預金 三、〇〇〇
債権 一、〇〇〇
固定資産 五、〇〇〇
負債(貸方)金額
借入金 三、〇〇〇
未払金 一、〇〇〇
資本 五、〇〇〇

天気豫報
今夜は北の風暴雨模様
明日は北西の風暴後晴
(名寄町気象台)
二十六日
(小名寄町気象台)
晴 最高気温 二十度
最低気温 十度

父性愛から
貧兒に恵む
昨年初
植田町上町料理店比須家
の賑わい事件で傷害致死
に問はれた高原新助(四)
は平支部に於て懲役二年
六ヶ月を言渡され控訴中
(小名寄町気象台)
二十六日
(小名寄町気象台)
晴 最高気温 二十度
最低気温 十度

不幸續きの一家
各方面の同情集る
哀れ襲はれた三七十
萬歳中同村粘土山で作業中
は赤井村西小川抗夫忠作の
親つて高所から轉落重傷
長男、母親は昨年春同村某
負つたので三七十若は父親
は明二十六日福島市公會
で行ふが平紹介所管内から
附した

不幸續きの一家
各方面の同情集る
哀れ襲はれた三七十
萬歳中同村粘土山で作業中
は赤井村西小川抗夫忠作の
親つて高所から轉落重傷
長男、母親は昨年春同村某
負つたので三七十若は父親
は明二十六日福島市公會
で行ふが平紹介所管内から
附した

不幸續きの一家
各方面の同情集る
哀れ襲はれた三七十
萬歳中同村粘土山で作業中
は赤井村西小川抗夫忠作の
親つて高所から轉落重傷
長男、母親は昨年春同村某
負つたので三七十若は父親
は明二十六日福島市公會
で行ふが平紹介所管内から
附した